

哲 學 研 究

第 二 十 卷 第 九 冊

第 三 百 三 十 八 號

昭 和 二 年 九 月 一 日 發 行

機械作用と身體の個性(下)……………文學士 大西友太	十九世紀前半の佛蘭西畫壇に於け……………	寫實主義の變遷(五)……………小林太市郎	「ちご」の教育……………文學士 高橋俊乘	言 語……………文學士 中井正一	海外消息……………文學士 伊藤猷典
----------------------------	----------------------	----------------------	----------------------	------------------	-------------------

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內

京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌「哲學研究」ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名)京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名)委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、「哲學研究」ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

文學士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學士
植田	狩野	小西	高坂	小島	澤村	高瀬	田邊	高橋	朝永	中井	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	和辻						
壽藏	直喜	重直	正顯	祐太	專太	武次	邊俊	俊乘	三十一	正一郎	幾多	俊夫	精一	康算	治郎	三郎	哲郎						

後には幾多の歐洲の佛敎學者言語學者及び著者が心血を注いで此の書の完成に努力して居ることを知つたならば、一語々々が苦心の結晶であることがわかるであらう。

けれども歐洲に於ても之はフーコー、シュリアン兩氏がヘテルスブルグ大學所藏の同書の謄本から手寫したものであるから誤謬無きを得ない。著者は本文中明かに誤謬と思はれる語には (sic) の記號を附して見るものに注意を與へ、寫本である爲めに書體の混同より意義の變動を來してゐるものもあるから其の際には訂正して正しい語を知らしめ、前述の通り漢語は比較的後世の附加であるから梵語の譯語として妥當を缺く場合もあるから、著者は漢譯經典中より適當な譯語を措擧して相當欄に挿入して居られるから之によりて該梵語に近い經典中の漢譯語をも見出すことも出來る。

本文は二百五十四頁、注記は曖昧な又不正確な語句名目に對する著者の見解を述べたもので六十頁、それに改版は二頁注記が追加されてゐる。索引には梵語索引、漢語索引、法數索引があつていづれの方面からでも語句を引出すに便利になつて居る。佛敎研究者佛敎梵語研究者の是非座右に備ふべき辭典である。(甲斐實行)

寄贈雜誌

學苑 本年八月號 昭和二年七月—八月

東亞之光	生理學研究	佛敎研究	人間高昇	哲學雜誌	神學評論	學校敎育	頌悲	丁酉倫理講演集	觀想	哲學評論	信濃敎育
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七月號	八月號	七月號	八月號	七月號	第十四卷第三號	八月號	八月號	八月號	七月號	第一卷第一號、第二號	八月號

前 號 目 次

十九世紀前半の佛蘭西畫壇に於ける寫實主義の變遷(四)……………	小林 太市郎
カント哲學に於ける神の存在の證明根據としてのテレオロギー……………	文學士 淡野 安太郎
先驗倫理學の概念と其の一問題……………	文學士 柳田 謙十郎
彙報其他……………	

會 告

一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
 一、會費ハ振替口座大阪〇六六三番、内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候
 京都帝國大學 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

○ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候
 ○ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
 ○ 振替貯金にて御送金 (振替大阪三二九五番三三九三一番東京三三九三一番) 内外出版株式會社宛に願上候
 ○ 前金切れの場合に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
 ○ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定 價

冊	數	定	價	郵	稅
一	冊	金	四	拾	錢
六	冊(前金)	金	貳	圓	四
十二	冊(前金)	金	四	圓	八

半頁ハ取扱不申

廣 告 料

一頁 金參拾圓

昭和二年八月廿五日印刷納本 第九册
 第三百三十八號 第十二卷

許 不 複 製
 禁 轉 載

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南 内外出版株式會社

編輯者 京都哲學會
 右代表者 高橋俊乘
 發行者 須磨勘兵衛
 印刷者 須磨勘兵衛
 印刷所 内外出版株式會社印刷部
京都市北小路通新町西入
 京都市西洞院七條南入

本社 京都市下京區西洞院通七條南入
 販賣所 東京市日本橋區本銀町三ノ十四 内外出版株式會社

賣捌所 (東京) 寶文館 東海堂
 (大阪) 北隆館 上田屋
 (神戸) 寶文館 盛文館 參文社
 (京都) 共盛社 大盛社 川瀨書店